



TITLE:

1-1 ニホンザルの食物パッチ利用に対する食物環境と個体の存在影響 (X.共用利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

風張, 喜子

CITATION:

風張, 喜子. 1-1 ニホンザルの食物パッチ利用に対する食物環境と個体の存在影響(X.共用利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 2006, 36: 95-95

ISSUE DATE:

2006-07-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166301>

RIGHT:

についての応募・採択状況は下記のとおりである。

課題	応募	採択
計画研究1	7件 (8名)	7件 (8名)
計画研究2	4件 (6名)	4件 (6名)
計画研究3	10件 (11名)	10件 (11名)
計画研究4	5件 (8名)	5件 (8名)
自由研究	38件 (68名)	36件 (52名)
施設利用	36件 (47名)	33件 (44名)

2. 研究成果

(1) 計画研究

1-1 ニホンザルの食物パッチ利用に対する食物環境と他個体の存在の影響

風張喜子(北海道大・院・環境科学)

対応者：杉浦秀樹

前年度の研究により、食物環境だけではなく順位や伴食個体の存在などの社会的要因が、ニホンザルの食物パッチ利用に影響を及ぼすことが明らかになった。しかし、観察時期が限られ、また食品目ごとに分析が行われており、彼らのパッチ利用の全体を理解できたとは言えない。統一的な理解を進めるために、本研究では、食物資源の分布・量・質が異なる様々な時期に、食品目の栄養価を考慮しながら、食物環境と他個体の存在がパッチ利用に及ぼす影響を評価することを目的とした。宮城県金華山島のニホンザル B1 群を対象とし、食物環境の異なる時期ごとに約 1 ヶ月ずつ、計 6 回の調査を行った。様々な順位のオトナメスのパッチ利用(採食品目・取り込み食物数・食物取り込み時間・食物探索時間・滞在時間)、食物環境(パッチの位置・サイズ・食物密度)、社会的要因(順位・伴食個体・攻撃的交渉)を記録した。これらのデータと、今後行う食物資源の分布調査の結果をあわせて、食物環境(パッチサイズ・パッチ内食物密度・食物分布)および社会的要因が、栄養量の取り込み時間・取り込み量・食物探索時間・パッチ滞在時間に及ぼす影響を分析する予定である。

1-2 ニホンザルの休息場所および泊まり場選択に関する要因の評価

辻大和(東京大・院・農学生命科学)

対応者：杉浦秀樹

昨年度に引き続き、ニホンザルの泊まり場の選択と温度環境の関連性を検討した。宮城県金華山島北西部の様々な地形 10 箇所(尾根×3、沢×3、海岸、シバ群落、シキミ群落、スギ群落)に温度データロガーを設置し、2005 年 8 月 11 日から 2006 年 3 月 21 日にかけて気温を記録した。温度の記録期間中、調査対象とした群れは沢を泊まり場とすることが多く(53 日中 41 日)、また季節ごとに分けると夏(8 月)は 5 日中 3 日(60%)、秋(9-11 月)は 38 日中 30 日(79%)、冬(12-3 月)は 10 日中 7 日(70%)と、昨年度とは異なり季節の違いはあまり見られなかった。データロガーのデータと風速のデータよりサルの体感温度を推定した結果、沢ではそ